

日本語文書交換用ファイル仕様 (事務用グラフ)

File Specification for Japanese Documents Interchange (Business Graph Type)

1. 適用範囲 この規格は、日本語ワードプロセッサ又は同等の能力をもつ情報処理機器の相互間でフレキシブルディスクカートリッジを用いて、文字及び事務用グラフを基本とする日本語文書の交換を行う場合の文書ファイルの仕様について規定する。

この規格は、次のことを規定する。

- (1) 文書ファイルの構成
- (2) 文書ファイルを構成する情報の種類及び形式
- (3) 使用する文字符号（図形文字、制御文字）の種類及び機能
- (4) ブロックデータ部の構成
- (5) ブロックデータ部を構成する情報

引用規格：

- JIS X 0001 情報処理用語
- JIS X 0201 情報交換用符号
- JIS X 0202 情報交換用符号の拡張法
- JIS X 0208 情報交換用漢文字符号系
- JIS X 0210 情報交換用文字列による数値表現
- JIS X 0603 情報交換用フレキシブルディスクカートリッジのラベルとファイル構成

2. 用語の意味 この規格で用いる主な用語の意味は、JIS X 0001（情報処理用語）によるほか、次のとおりとする。

- (1) **文書** 人間が理解できるように2次元形式で表現される情報で、例えば用紙上に印字又は画面上に表示されるもの。

この規格においては、文書は1ページ又は複数ページからなり、文書作成時の書式の初期値を定義する文書書式情報をもつ。

- (2) **文書ファイル** 日本語文書の交換の対象となる一つ以上の文書からなるファイル。文書ファイルは文書見出し部、文書データ部からなり、一つの文書は文書見出し部中の文書見出し情報と文書データ部中の文書実体の対により媒体上に格納される。
- (3) **ファイル** 一つの単位として取り扱われる関連したレコードの列。ファイルは、一つのボリュームの全体若しくは一部、又は二つ以上のボリュームにまたがって格納することができる。

- (4) **ボリューム** 取付け取外しができるデータ媒体の物理的単位。この規格においては、フレキシブルディスクカートリッジがこれに相当する。一つのボリュームには、一つのファイルの全体若しくはその一部、又は二つ以上のファイルを格納することができる。
- (5) **レコード** 媒体上の格納及び読出しの単位となる連続したデータの集合。この規格では 256 バイトの長さとする。
- (6) **エクステント** 連続した昇順のアドレスをもつレコードの列。

関連規格：JIS X 4001 日本語文書交換用ファイル仕様（基本形）

- (7) **システムラベル** JIS X 0603（情報交換用フレキシブルディスクカートリッジのラベルとファイル構成）によって規定されているボリューム見出しラベル、ファイル見出しラベルなどの集まり。
- (8) **文書見出し情報** 文書ファイルに格納される文書実体に先立って置かれる情報であって、各文書を識別し、その記憶場所、文書の属性等を表すもの。
- (9) **文書交換水準** 交換する文書中に含まれる事務用グラフの有無、取り扱う文字の符号化表現及び制御文字などの種別により区分した文書的水準。
- (10) **文書書式情報** 文書を印字する用紙の規格、用紙上における文字の物理的な配置、個々の文字の物理的な表現方法などを定める情報。

この規格においては、交換文書の書式の初期値を定義するために使用する。

- (11) **制御文字** 制御機能を表現する符号化文字。
- (12) **図形文字** 制御文字以外の符号化文字であって、印字・表示の可視的表現をもつもの。
- (13) **漢字間隔** JIS X 0208（情報交換用漢文字符号系）による間隔を表現する文字。
- (14) **テキスト** 1 ページ又は複数ページからなる文書の図形文字及び制御文字の列。
- (15) **ページ** 用紙の物理的な制約又は文書の体裁に基づいて分割されたテキスト。
- (16) **字方向** 文字の読みの方向。
- (17) **行方向** 文字の読みの方向に直角な方向。
- (18) **行** ページ内の文字の 1 次元的並びで、ページを字方向に区分する単位。
- (19) **文字ピッチ** 文字を行中に並べる場合の字送り量。
- (20) **行ピッチ** 行を並べる場合の行送り量。
- (21) **縦書き** 各行の文字が上から下へ、縦読みになるような文字の配列。
- (22) **横書き** 各行の文字が左から右へ、横読みになるような文字の配列。
- (23) **動作位置** 次に処理しようとしている文字位置。処理した後は、動作位置は、通常 1 文字分進む。
- (24) **行始端** 行の最初の文字が始まる位置。横書きの場合は左端、縦書きの場合は上端の文字が始まる位置で、文書書式情報の字方向余白欄の文字数に対応する余白の次の文字位置。
- (25) **行終端** 行の最後の文字位置。横書きの場合は右端、縦書きの場合は下端の文字が終わる位置で、文書書式情報の字方向余白欄の文字数と 1 行当たり文字数欄の文字数の和に対応する文字位置。
- (26) **全角** 字方向の大きさが、通常である文字の大きさ。
- (27) **半角** 字方向の大きさが、全角の 50%である文字の大きさ。
- (28) **倍角** 字方向の大きさが、全角の 200%である文字の大きさ。
- (29) **事務用グラフ** 文書に含まれる情報のうち、グラフ形式で表現される情報で、この規格では折れ線グラフ、棒グラフ、積上げ棒グラフ、帯グラフ及び円グラフとする。
- (30) **基準軸** 折れ線グラフ、棒グラフ及び積上げ棒グラフを表現する基本となる軸。

- (31) **実データ軸** 基準軸と直角な方向にとられる軸。
- (32) **基 線** 実データ軸の基準となる位置から基準軸に平行に引かれた直線で、基準軸に対して二次的に使用する基準となる線。
- (33) **要 素** 事務用グラフを構成するデータの集合単位。折れ線グラフ、棒グラフ及び積上げ棒グラフにおいては基準軸を構成し、帯グラフ及び円グラフにおいては全体に対する割合を示す。
- (34) **項 目** 同じ性質をもつ要素の種類。
- (35) **ブロック** 文書のページ内において事務用グラフの存在する長方形（正方形を含む。）の領域。そこに事務用グラフを配置する。
- (36) **ブロック書式情報** ブロックの番号や大きさを規定する情報。
- (37) **グラフ領域** ブロック内においてグラフを表現する領域。

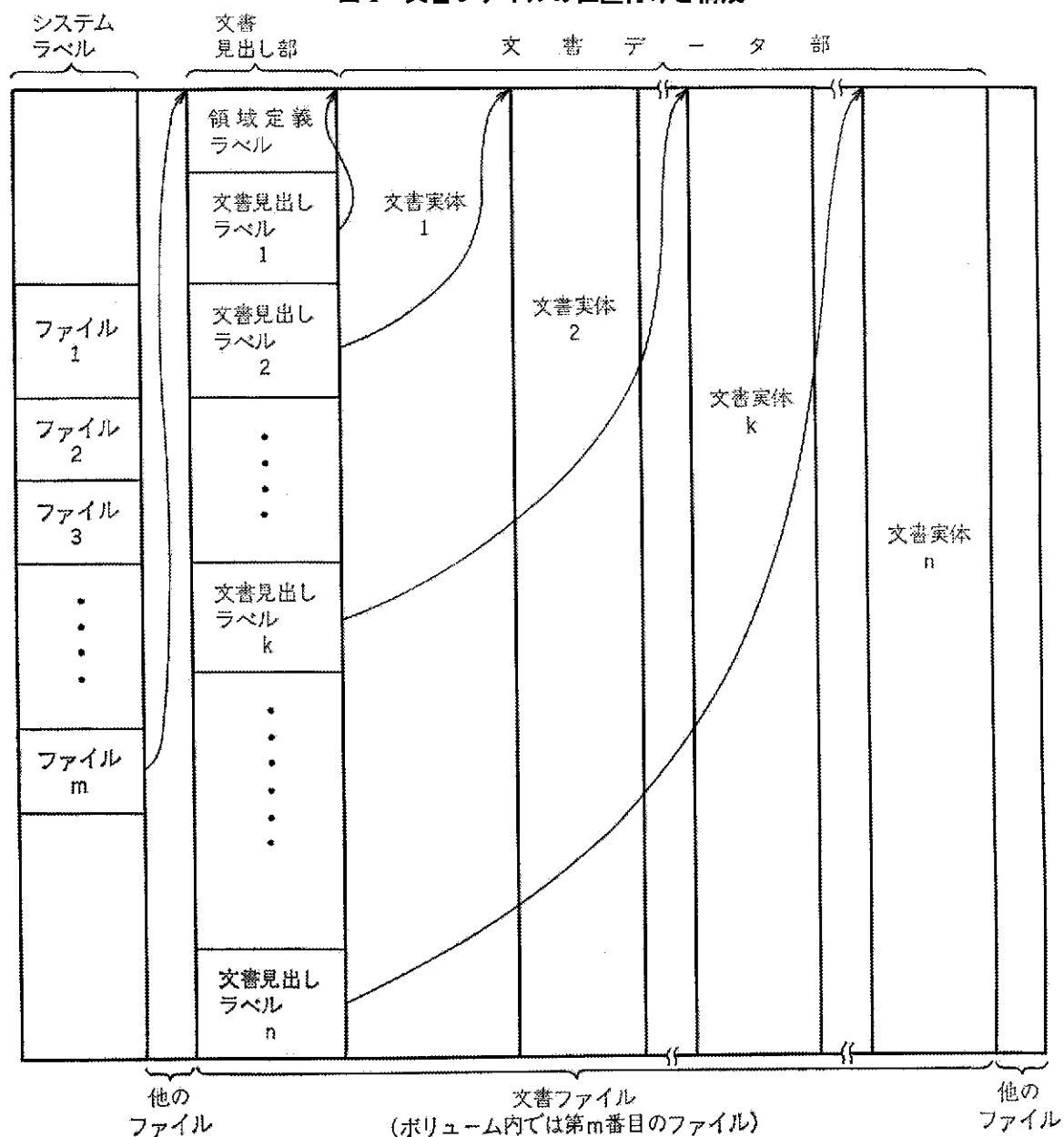
3. 日本語文書交換用ファイル（事務用グラフ）の構成

3.1 文書ファイル 文書ファイルは、JIS X 0603 に従ってフレキシブルディスクカートリッジ上に構成するファイルとし、セクタ当たり 256 バイトの非ブロック化形式とする。

文書ファイルは、文書見出し部及び文書データ部から構成する。

この規格で扱う文書は、文書見出しラベルと文書実体から構成する。これらを文書ファイル上の文書見出し部及び文書データ部にそれぞれ対応づけて表現する。文書ファイルの位置付けと構成は、図 1 による。

図 1 文書ファイルの位置付けと構成



備考1. 文書 k は、文書見出しラベル k と文書実体 k とから構成される (k は1から n)。

2. 領域定義ラベルは、4.2 参照のこと。

なお、一つの文書ファイルは、一つのボリュームに格納することとする。ただし、ボリュームの最後の文書実体がテキストだけで構成される場合は、そのテキストに限って2番目のボリュームに格納することができる。その際、2番目のボリュームの最初のレコードの最初の文字位置から、テキストを格納する。

3.2 文書見出し部 文書見出し部は、文書ファイルの先頭部に位置し、一つの領域定義ラベルと一つ又は複数の文書見出しラベルからなる。領域定義ラベルは、文書見出し部の領域を指定する領域定義情報とし、その内容は、4.2 で規定する。

文書見出しラベルは、文書ファイルに含まれる各文書の識別、ファイル内における格納場所などの指定を行う文書見出し情報とし、その内容は、4.3 で規定する。

3.3 文書データ部 文書データ部は、文書見出し部内の文書見出しラベルで定義された、一つ又は複数の文書実体からなる。一つの文書実体は、一つの文書書式情報とテキスト及び0個以上のブロックデータ部とで構成する。文書書式情報は、文書実体の先頭に格納され、その内容は、5.2で規定する。テキスト及びブロックデータ部は、(1)～(6)のとおりとし、その内容は、それぞれ6.及び7.で規定する。

- (1) テキストは、先行する文書書式情報の直後から始める。
- (2) ブロックデータ部は、テキストの後に続ける。
- (3) テキストの全体又は一部及びブロックデータ部は、ボリューム内の連続したレコードに格納する。
- (4) テキストの全体又は一部及びブロックデータ部は、文書見出し部内の文書見出しラベルが置かれているボリューム内に格納する。
- (5) 文書データ部の最初のブロックデータ部の先頭は、当該文書見出しラベルによって指定される。
- (6) 各ブロックデータ部の長さは、当該ブロック書式情報によって指定され、次のブロックデータ部は、引き続くレコードから始まる。

文書見出し部及び文字データ部の文書ファイル上における位置付けは、図2による。

なお、システムラベルの書式は、附属書1による。

図2 文書見出し部及び文書データ部の文書ファイル上の位置付け

システムラベル

ボリューム 見出しラベル	ファイル見出し ラベル1	ファイル見出し ラベル2	＊ ＊ ＊ ＊ ＊	ファイル見出し ラベルm
-----------------	-----------------	-----------------	-----------	-----------------

ラベル識別子及びラベル番号IDR1
ファイル識別名
エクステンツ始め
エクステンツ終わり
データ終わり

文書見出し部

領域定義 ラベル	文書見出し ラベル1	文書見出し ラベル2	＊ ＊ ＊	文書見出し ラベルn	空き領域
-------------	---------------	---------------	-------	---------------	------

DHL1

ラベル識別子及びラベル番号 DHL2
文書識別名
文書1先頭アドレス
文書1終端アドレス
最初のブロックデータ部の先頭アドレス
最後のブロックデータ部の終端アドレス

ラベル識別子及びラベル番号 DHL2
文書識別名
文書n先頭アドレス
文書n終端アドレス
最初のブロックデータ部の先頭アドレス
最後のブロックデータ部の終端アドレス

文書データ部

文書実体1

文書書式 情報1	テキスト 1	ブロック データ部1	＊ ＊ ＊	ブロック データ部m	＊
-------------	-----------	---------------	-------	---------------	---

文書実体n

＊ ＊	文書書式 情報 n	テキスト n	ブロック データ部1	＊ ＊ ＊	ブロック データ部1	空き領域
-----	--------------	-----------	---------------	-------	---------------	------

備考1. ファイル見出しラベルの詳細は、附属書表1.2を参照のこと。

2. 文書書式情報は、1ページ又は複数ページからなるテキスト及びブロックデータに一つ設定される。

4. 文書見出し部

4.1 文書見出し部の構成 文書見出し部は、文書ファイルの先頭部に位置し、一つの領域定義ラベルと一つ又は複数の文書見出しラベルからなる。

4.2 領域定義ラベル 領域定義ラベルは、文書ファイル内に収容する文書の見出しラベルを格納すべき領域を示す。領域定義ラベルの内容は、表 1 による。詳細は、(1)～(5)による。

表 1 領域定義ラベル

ラベル内の位置	名前	長さ(バイト)	内容
1～3	ラベル識別子	3	図形文字“DHL”
4	ラベル番号	1	数字“1”
5～103	(将来の標準化のために確保)	99	間隔
104～108	文書見出し部最終見出しラベルのアドレス	5	数字
109～113	文書見出し部の終端アドレス	5	数字
114～256	(将来の標準化のために確保)	143	間隔

備考 内容を表現する文字の符号は、JIS X 0201 (情報交換用符号) による。

- (1) **ラベル識別子** (ラベル内の位置 1～3) ラベル識別子を指定する欄とし、図形文字“DHL”とする。
- (2) **ラベル番号** (ラベル内の位置 4) ラベル番号を指定する欄とし、数字“1”とする。
- (3) **文書見出し部最終見出しラベルのアドレス** (ラベル内の位置 104～108) 文書見出し部最終見出しラベルのレコード番号を示す欄とし、ファイルの先頭から相対レコード番号を 5 けたの数字で指定する。ファイルの先頭レコード番号は、“00000”とする。
- (4) **文書見出し部の終端アドレス** (ラベル内の位置 109～113) 文書見出し部の終端のレコード番号を示す欄とし、ファイルの先頭からの相対レコード番号を 5 けたの数字で指定する。ファイルの先頭レコード番号は、“00000”とする。
- (5) **将来の標準化のために確保する欄** (ラベル内の位置 5～103, 114～256) 将来の標準化のために確保する欄とし、間隔で埋める。

4.3 文書見出しラベル 文書見出しラベルは、文書ファイルに含まれる文書ごとに作成し、文書の識別、ファイル内における格納場所の指定、文書交換水準などを示す。

最初の文書見出しラベルは、領域定義ラベルの直後、すなわちレコード番号“00001”に記録する。

後続の文書見出しラベルは、先行する文書見出しラベルの直後に記録する。

文書見出しラベルの内容は、表 2 による。詳細は、(1)～(18)による。

表 2 文書見出しラベル

ラベル内の位置	名前	長さ(バイト)	内容
1～3	ラベル識別子	3	図形文字 “DHL”
4	ラベル番号	1	数字 “2”
5	(将来の標準化のために確保)	1	間隔
6～65	文書識別名	60	図形文字 (JIS X 0208)
66～85	著者名	20	図形文字 (JIS X 0208)
86～87	版数	2	数字
88～95	作成日付け	8	数字
96～99	ページ数	4	数字
100	(将来の標準化のために確保)	1	間隔
101～102	文書交換水準	2	数字 “10”, “11” 又は “20”
103	(将来の標準化のために確保)	1	間隔
104～108	文書の先頭アドレス	5	数字
109～113	文書の終端アドレス	5	数字
114～116	テキストの最終レコードの未使用バイト数	3	数字
117	バイパス標識	1	図形文字
118～125	パスワード	8	図形文字
126	文書分割標識	1	間隔又は数字 “1”
127～131	最初のブロックデータ部の先頭アドレス	5	数字又は間隔
132～136	最後のブロックデータ部の終端アドレス	5	数字又は間隔
137～196	(将来の標準化のために確保)	60	間隔
197～256	文書メモ	60	図形文字 (JIS X 0208)

備考 内容を表示する文字の符号は、JIS X 0208 (情報交換用漢字符号系) と断らない限り、JIS X 0201 による。

- (1) **ラベル識別子** (ラベル内の位置 1～3) ラベル識別子を示す欄とし、図形文字 “DHL” とする。
- (2) **ラベル番号** (ラベル内の位置 4) ラベル番号を示す欄とし、数字 “2” とする。
- (3) **文書識別名** (ラベル内の位置 6～65) 文書を識別する欄とし、図形文字で表現する。文書識別名は、文書の作成者が文書作成時にその文書に対して指定する。
- (4) **著者名** (ラベル内の位置 66～85) 文書の著者を示す欄とし、図形文字で表現する。
- (5) **版数** (ラベル内の位置 86～87) 文書の版数を示す欄とし、数字で表現する。
- (6) **作成日付け** (ラベル内の位置 88～95) 文書の作成された日付けを示す欄とし、西暦の下 2 けたの年、2 けたの月及び 2 けたの日からなる 6 けたの数字によって表現し、年、月、日の間にハイフン “-” を入れる。
- (7) **ページ数** (ラベル内の位置 96～99) 文書のページ数を示す欄とし、数字で表現する。
- (8) **文書交換水準** (ラベル内の位置 101～102) 文書の交換水準を指定する欄とし、文書において取り扱う文字の符号化表現及び制御文字により区分する。

次の数字で表現する。

数字 “10” : 文字の符号化表現は図形文字とし、制御文字は表 5 から BUS を除く 21 種類とする。

数字 “11” : 符号化表現は図形文字とし、制御文字は表 5 から CHT, HTSA, JFY, NUL, DT 及び BUS を除く 16 種類とする。

数字 “20” : 文字の符号化表現は図形文字とし、制御文字は表 5 に示す 22 種類とする。

数字 “10” 及び “11” は基本形の文書交換水準を表し、数字 “20” は事務用グラフの交換水準を表す。

- (9) **文書の先頭アドレス** (ラベル内の位置 104～108) 文書が格納されている先頭のレコード番号を示す欄とし、ファイルの先頭からの相対レコード番号を 5 けたの数字で指定する。ファイルの先頭レコード番号は、“00000”とする。
- (10) **文書の終端アドレス** (ラベル内の位置 109～113) 文書が格納されている最終のレコード番号を示す欄とし、ファイルの先頭からの相対レコード番号を 5 けたの数字で指定する。ファイルの先頭レコード番号は、“00000”とする。ただし、複数ボリュームにまたがる場合は、“99999”とする。
- (11) **テキストの最終レコードの未使用バイト数** (ラベル内の位置 114～116) テキストの最終レコード内の未使用部分のバイト数を 3 けたの数字で指定する。
- (12) **バイパス標識** (ラベル内の位置 117) 文書交換のとき、この文書を見捨てるか否かを示す欄とし、次の文字で指定する。
 間 隔 : 無視しない。
 図形文字“B” : 無視する。
- (13) **パスワード** (ラベル内の位置 118～125) 文書に対するパスワードを指定する欄とし、8 けたの図形文字で指定する。パスワードに合致する文字列が与えられたときに、文書を読み取ることができる。8 けたの図形文字列がすべて間隔の場合だけパスワードなしとする。
- (14) **文書分割標識** (ラベル内の位置 126) 文書がそのボリューム内で終了しているか、他のボリュームにまたがっているかを指定する欄とし、次の文字で指定する。
 間 隔 : 文書がこのボリュームで終わっている。
 数字“1” : 文書がこのボリュームで終わっていない。
- (15) **最初のブロックデータ部の先頭アドレス** (ラベル内の位置 127～131) 最初のブロックデータ部が格納されている先頭のレコード番号を示す欄とし、ファイルの先頭から相対レコード番号を 5 けたの数字で指定する。ファイルの先頭レコード番号は、“00000”とする。ただし、ブロックデータ部の個数が 0 個のときは、間隔で埋める。
- (16) **最後のブロックデータ部の終端アドレス** (ラベル内の位置 132～136) 最後のブロックデータ部が格納されている最終のレコード番号を示す欄とし、ファイルの先頭からの相対レコード番号を 5 けたの数字で指定する。ファイルの先頭レコード番号は、“00000”とする。ただし、ブロックデータ部の個数が 0 個のときは、間隔で埋める。
- (17) **文書メモ** (ラベル内の位置 197～256) 文書メモを付けたい場合に、注記用として使用する。
- (18) **将来の標準化のために確保する欄** (ラベル内の位置 5, 100, 103, 137～196) 将来の標準化のために確保する欄とし、間隔で埋める。

5. 文書データ部

5.1 文書データ部の構成 文書データ部は、文書見出し部内の文書見出しラベルで定義された、一つ又は複数の文書実体からなる。各文書実体は、256 バイトの文書書式情報と、その直後に続くテキスト及びブロックデータ部からなる。

5.2 文書書式情報 文書書式情報は、交換文書の書式の初期値を定義するもので、その内容は、表 3 による。詳細は、(1)～(9)による。文書書式情報はその一部又は全部を省略することができる。省略するとき、該当する欄を間隔で埋める。全部を省略したときの書式は、附属書 2 による。

表 3 文書書式情報

レコード内の位置	名前	長さ(バイト)	内容
1～2	ページ書式	2	数字
3	縦書き・横書き	1	数字“0”又は “1”
4～5	文字ピッチ	2	数字
6～7	行ピッチ	2	数字
8～14	(将来の標準化のために確保)	7	間隔
15～17	1行当たり文字数	3	数字
18～20	1ページ当たり行数	3	数字
21～22	行方向余白	2	数字
23～24	字方向余白	2	数字
25～256	(将来の標準化のために確保)	232	間隔

備考 内容を表示する文字の符号は、JIS X 0201 による。

- (1) **ページ書式** (レコード内の位置 1～2) 用紙のサイズと方向の組合せごとの書式を指定する欄とし、次の2けたの数字で指定する。省略時は、数字“10”とみなす。

数字“00”：A4及び北米サイズに共通な短辺方向行の書式

数字“10”：A4サイズ短辺方向行の書式

数字“11”：A4サイズ長辺方向行の書式

数字“12”：B5サイズ短辺方向行の書式

数字“13”：B5サイズ長辺方向行の書式

数字“14”：B4サイズ短辺方向行の書式

数字“15”：B4サイズ長辺方向行の書式

備考1. 北米サイズは、215.9×279.4mmとする。

2. 数字“00”は欧文文書用、数字“10”～“15”は日本語文書用とする。

- (2) **縦書き・横書き** (レコード内の位置 3) 縦書き・横書きの区別を指定する欄とし、次に示す1けたの数字で指定する。省略時は、数字“0”とみなす。

数字“0”：横書き

数字“1”：縦書き

- (3) **文字ピッチ** (レコード内の位置 4～5) 文字ピッチを指定する欄とし、次に示す2けたの数字で指定する。省略時は、数字“03”とみなす。

数字“00”：25.4mm 当たり 10 文字

数字“03”：25.4mm 当たり 6 文字

備考 数字“00”は欧文文書用、“03”は日本語文書用とする。

- (4) **行ピッチ** (レコード内の位置 6～7) 行ピッチを指定する欄とし、次に示す2けたの数字で指定する。省略時は、数字“01”とみなす。

数字“00”：25.4mm 当たり 6 行

数字“01”：25.4mm 当たり 4 行

数字“02”：25.4mm 当たり 3 行

数字“03”：25.4mm 当たり 12 行

備考 数字“00”～“03”は欧文文書用、数字“00”～“02”日本語文書用とする。

- (5) **1 行当たり文字数**（レコード内の位置 15～17） 1 行当たりの文字数を指定する欄とし、3 けたの数字で指定する。省略時は、**附属書表 3.1** に示す値とみなす。
- (6) **1 ページ当たり行数**（レコード内の位置 18～20） 1 ページ当たりの行数を指定する欄とし、3 けたの数字で指定する。省略時は、**附属書表 3.2** に示す値とみなす。
- (7) **行方向余白**（レコード内の位置 21～22） 用紙端から第 1 行までの余白を指定する欄とし、2 けたの数字で余白の量を指定する。余白の量は行ピッチ〔(4)参照〕で定義された行ピッチを単位とする行数で表す。省略時は、数字“03”とみなす。
- (8) **字方向余白**（レコード内の位置 23～24） 用紙端から第 1 文字位置までの余白を指定する欄とし、2 けたの数字で余白の量を指定する。余白の量は、文字ピッチ〔(3)参照〕で定義された文字ピッチを単位とする文字数で表す。省略時は、数字“06”とみなす。
- (9) **将来の標準化のために確保する領域**（レコード内の位置 8～14, 25～256） 将来の標準化のために確保する欄とし、間隔で埋める。

6. テキスト

6.1 テキストの構成 テキストは、図形文字と制御文字とからなる。

6.2 図形文字 図形文字としては、**JIS X 0208-1983** によって規定される図形文字及び **JIS X 0201** のローマ文字集合の両方を使用する。両者の切換えは、**表 4** に示すエスケープシーケンスによって指示する。

なお、**JIS X 0208-1983** によって規定される図形文字のうち第 1 区の第 13 点から第 18 点まで及び第 2 区の第 94 点の文字及び記号については、他の図形文字と組み合わせて使用する。

表 4 図形文字の切換えエスケープシーケンス

	7 単位			8 単位		
JIS X 0201 への切換え	ESC	2/8	4/10	ESC	02/8	04/10
JIS X 0208 への切換え	ESC	2/4	4/2	ESC	02/4	04/2

6.3 制御文字

6.3.1 制御文字の種類と表現 制御文字としては、**表 5** に示す 22 個の文字を使用する。

なお、符号の拡張法は、**JIS X 0202**（情報交換用符号の拡張法）による。

- (1) **8 単位の場合** パラメタを伴わない制御文字の符号化表現は、**表 6** による。パラメタを伴う制御文字の符号化表現は、**表 7** による。
- (2) **7 単位の場合** パラメタを伴わない制御文字は、**表 8** 及び**表 9** による。パラメタを伴う制御文字の符号化表現は、**表 7** による。

6.3.2 制御文字の機能 制御文字の機能は、**表 10** による。

6.3.3 制御文字の表現 制御文字の符号化表現は、**表 11** 及び**表 12** による。

表 5 制御文字の種類と分類

大分類	小分類	名称	記号	パラメタ	文書交換水準対応		
情報分離		文書分離	DT		"10"	"20"	
書式制御	位置制御	後退	BS	n	"10"	"11"	"20"
		字方向タブ前進	CHT		"10"		"20"
		改行	LF		"10"	"11"	"20"
		書式送り	FF		"10"	"11"	"20"
		復帰	CR		"10"	"11"	"20"
		間隔	SP		"10"	"11"	"20"
	タブ制御	字方向タブ指定	HTSA	n1 ; n2 ; ...	"10"		"20"
	様式制御	ページ書式選択	PFS	s	"10"	"11"	"20"
		縦書き・横書き選択	SPD	s	"10"	"11"	"20"
		行ピッチ選択	SVS	s	"10"	"11"	"20"
		文字ピッチ選択	SHS	s	"10"	"11"	"20"
		文字変形	GSM	n1 ; n2	"10"	"11"	"20"
		グラフィック修飾	SGR	s	"10"	"11"	"20"
		そろえ	JFY	s	"10"		"20"
		ブロック指定	BUS	n			"20"
特殊制御	特殊書式制御	部分行上げ	PLU		"10"	"11"	"20"
		部分行下げ	PLD		"10"	"11"	"20"
	拡張制御	拡張	ESC		"10"	"11"	"20"
		制御機能拡張	CSI		"10"	"11"	"20"
	その他	空文字	NUL		"10"		"20"
		文字置換	SUB		"10"	"11"	"20"

備考 パラメタの n は数値パラメタ, s は選択パラメタを示す。
パラメタ欄が空欄の場合は, その制御文字がパラメタを伴わないことを示す。

表 6 8 単位の場合の制御文字の符号化表現

[illegible]

表7 パラメタを伴う制御文字の符号化表現

記号	符号化表現
PFS	CSI s 2/0 4/10
SGR	CSI s 6/13
SHS	CSI s 2/0 4/11
SVS	CSI s 2/0 4/12
SPD	CSI s 2/0 5/3
GSM	CSI n1 ; n2 2/0 4/2
JFY	CSI s 2/0 4/6
CHT	CSI n 4/9
HTSA	CSI n1 ; n2 ; ... 2/0 4/14
BUS	CSI n 2/0 4/15

備考 パラメタの **n** は数値パラメタ, **s** は選択パラメタを示す。そのパラメタ値は、表 11 及び表 12 による。

表 8 7 単位の場合の制御文字の符号化表現

								0	0	0	0	1	1	1	1							
								0	0	1	1	0	0	1	1							
								0	1	0	1	0	1	0	1							
b ₇	b ₆	b ₅	b ₄	b ₃	b ₂	b ₁	列 行	0	1	2	3	4	5	6	7							
								0	0	0	0	0	NUL		SP							
								0	0	0	1	1										
								0	0	1	0	2										
								0	0	1	1	3										
								0	1	0	0	4										
								0	1	0	1	5										
								0	1	1	0	6										
								0	1	1	1	7										
								1	0	0	0	8	BS									
								1	0	0	1	9										
								1	0	1	0	10	LF	SUB								
								1	0	1	1	11		ESC								
								1	1	0	0	12	FF	DT								
								1	1	0	1	13	CR									
								1	1	1	0	14										
								1	1	1	1	15										

表 9 7 単位の場合の制御文字の符号化表現

記号	符号化表現
PLD	ESC 4/11
PLU	ESC 4/12
CSI	ESC 5/11

表 10 制御文字の機能

名称	機能
文書分離 (DT)	一つの文書実体の終わりを示す情報分離文字とする。 備考 すべての図形文字及び制御文字を基本状態に解除する。
後退 (BS)	動作位置を同一行内で、1 文字分後退させる書式制御文字とする。 備考1. 2個以上の図形文字を合成する目的に使用するときには、その合成結果は保証されない。 2. この規格においては、行の始めの文字位置（ホームポジション）から全角相当で左余白の文字数分後退可能とする。
字方向タブ前進 (CHT)	動作位置を同一行内で、あらかじめ HTSA で指定されたタブ位置のうち、n 番目先のタブ位置に前進させる書式制御文字とする。 備考 n は、動作位置を n 番目先の位置に前進させる数値パラメタとする。n の値が省略されたときは、n=1 が指定されたものとし、次のタブ位置へ前進する。
改行 (LF)	新しい行の始まりを示す書式制御文字とする。これは、動作位置を同一文字位置のまま、次の行に進めるだけであって、字方向には移動しない。LF は、原則として CR と対で使用する。
書式送り (FF)	動作位置を同一文字位置のまま、次のページの第 1 行に進める書式制御文字とする。字方向に動かすのではない。FF は、原則として CR と対で使用する。

名称	機能
復帰 (CR)	動作位置を同一行の始めの文字位置（ホームポジション）に移動させる書式制御文字とし、行方向には移動しない。 備考1. CR は、原則として LF 又は FF と対で使用する。 2. CR は、行を合成する目的で使用するときは、その合成結果は保証されない。
間隔 (SP)	動作位置を同一行内で、1 文字分前進させる書式制御文字とする。 備考 SP は、制御文字とも印字しない図形文字ともみなされる。
字方向タブ指定 (HTSA)	動作位置が存在する行の次の行以降の行に対して、共通して一つ以上の字方向タブ位置を指定する書式制御文字とする。 備考1. 複数のタブ位置指定は、数値パラメタを必要個数指定することにより行う。 この制御文字により、以前に指定されていた字方向タブ位置は解除される。 2. パラメタの値は、行始端からの半角の文字数で指定する。
ページ書式選択 (PFS)	改ページの後のページ書式を指定する書式制御文字とし、選択パラメタを用いて、用紙のサイズと方向の組合せごとの書式を指定する。各ページ書式の文字数及び行数は、 附属書 3 による。 パラメタの値は、次のとおりとする。 数字 “0” : A4 及び北米サイズに共通な短辺方向行の書式 数字 “10” : A4 サイズ短辺方向行の書式 数字 “11” : A4 サイズ長辺方向行の書式 数字 “12” : B5 サイズ短辺方向行の書式 数字 “13” : B5 サイズ長辺方向行の書式 数字 “14” : B4 サイズ短辺方向行の書式 数字 “15” : B4 サイズ長辺方向行の書式 備考1. パラメタが省略された場合は、“0” が指定されたものとする。 2. パラメタ “0” は欧文文書用とし、“10” ～ “15” は日本語文書用とする。
縦書き・横書き選択 (SPD)	改ページの後の文字の表現方向を指定する書式制御文字とし、選択パラメタを用いて縦書きか、横書きかを指定する。 パラメタの値は、次のとおりとする。 数字 “0” : 横書き 数字 “1” : 縦書き 備考 パラメタが省略された場合は、“0” が指定されたものとする。
行ピッチ選択 (SVS)	後続のテキストに対して、行ピッチを指定する書式制御文字とし、選択パラメタによって行ピッチを指定する。 パラメタの値は、次のとおりとする。 数字 “0” : 25.4mm 当たり 6 行 数字 “1” : 25.4mm 当たり 4 行 数字 “2” : 25.4mm 当たり 3 行 数字 “3” : 25.4mm 当たり 12 行 この指定は、次の SVS 又は DT が現れるまで有効とする。 備考1. パラメタが省略された場合は、“0” が指定されたものとする。 2. SVS は、次の改行以降の行ピッチを指定する。 3. パラメタ “0” ～ “3” は欧文文書用、“0” ～ “2” は日本語文書用とする。
文字ピッチ選択 (SHS)	後続のテキストに対して、文字ピッチを指定する書式制御文字とし、選択パラメタによって文字ピッチを指定する。 パラメタの値は、次のとおりとする。 数字 “0” : 25.4mm 当たり 10 文字 数字 “3” : 25.4mm 当たり 6 文字 この指定は、次の SHS 又は DT が現れるまで有効とする。 備考1. パラメタが省略された場合は、“0” が指定されたものとする。 2. SHS は、SP、BS に対しても有効とする。 3. パラメタ “0” は欧文文書用、“3” は日本語文書用とする。

名称	機能												
文字変形 (GSM)	2 バイト符号の図形文字の大きさを変更する書式制御文字とする。2 バイト符号の図形文字の大きさは、全角、半角及び倍角の3種類とし、それらはパラメタで指定する。 備考1. 2バイト符号の図形文字の行方向の倍率（第1パラメタ）及び字方向の倍率（第2パラメタ）の二つの数値で指定する。 2. パラメタの値の単位は、百分比 (%) とする。 3. 第1パラメタ又は第2パラメタが省略された場合は、その値は、基本状態が指定されたものとする。 4. このパラメタの基本状態は、全角で、100;100 とする。 5. 半角の対象文字は、JIS X 0208-1983 の文字集合のうち JIS X 0201 に含まれるものとする。倍角の対象文字は、JIS X 0208-1983 の文字のうち、第8区1点から32点までの文字を除く全文字とする。 パラメタの値は、次のとおりとする。 <table><tr><th>意 味</th><th>パラメタ値</th><th>符号化表現</th></tr><tr><td>全 角</td><td>100;100</td><td>CSI 3/1 3/0 3/0 3/11 3/1 3/0 3/0 2/0 4/2</td></tr><tr><td>半 角</td><td>100; 50</td><td>CSI 3/1 3/0 3/0 3/11 3/5 3/0 2/0 4/2</td></tr><tr><td>倍 角</td><td>100;200</td><td>CSI 3/1 3/0 3/0 3/11 3/2 3/0 3/0 2/0 4/2</td></tr></table>	意 味	パラメタ値	符号化表現	全 角	100;100	CSI 3/1 3/0 3/0 3/11 3/1 3/0 3/0 2/0 4/2	半 角	100; 50	CSI 3/1 3/0 3/0 3/11 3/5 3/0 2/0 4/2	倍 角	100;200	CSI 3/1 3/0 3/0 3/11 3/2 3/0 3/0 2/0 4/2
意 味	パラメタ値	符号化表現											
全 角	100;100	CSI 3/1 3/0 3/0 3/11 3/1 3/0 3/0 2/0 4/2											
半 角	100; 50	CSI 3/1 3/0 3/0 3/11 3/5 3/0 2/0 4/2											
倍 角	100;200	CSI 3/1 3/0 3/0 3/11 3/2 3/0 3/0 2/0 4/2											
グラフィック 修飾 (SGR)	後続の図形文字列の表示属性を変更する選択パラメタをもった書式制御文字とする。 パラメタの値は、次のとおりとする。 数字“0”：グラフィック修飾の終了 数字“4”：下線の開始 備考1. この指定は、次の SGR 又は DT が現れるまで有効とする。 2. パラメタが省略された場合は、“0”が指定されたものとする。 3. 縦書きの場合は、右傍線とする。 4. SGR を使用して、部分行上げた文字又は部分行下げた文字に対しても下線を付けることができる。												
そ ろ え (JFY)	後続の図形文字列のうち、LF、FF 又はそろえの終了を示す JFY までの図形文字列を、行始端から行終端までの中で、そろえることを指定する書式制御文字とする。 そろえの種類又はそろえの終了を、次の選択パラメタで指定する。 数字“0”：そろえの終了 数字“6”：図形文字列の中央を行始端と行終端の中央にそろえる。 数字“7”：図形文字列の最後の文字を行終端にそろえる。 備考 パラメタが省略された場合は、“0”が指定されたものとする。												
ブロック指定 (BUS)	ブロックの存在を示す書式制御文字とする。4けたの数値パラメタを用いて、対応するブロック番号を示す。 ブロックは、この制御文字の文字位置を基準点として確保する。大きさは、ブロック書式情報に示される行方向ブロック寸法、字方向ブロック寸法に基づき基準点より行方向及び字方向にそれぞれ指定する。 備考1. この制御文字の直前に LF CR 又は FF CR があつた場合は、ブロックの基準点は次の行の先頭又は次のページの先頭の文字位置とする。 2. この制御文字の後に続く文字符号の文字位置は、確保されるブロックと重ならない位置に前進される。また、ブロック間の重なりはないものとする。 3. ブロックの基準点は、横書きの場合この制御文字位置の左上端とし、縦書きの場合この制御文字位置の右上端とする。												

名称	機能
部分行上げ (PLU)	図形文字の部分行上げ開始又は部分行下げ終了を指定する書式制御文字とする。部分行下げが有効な状態では部分行下げ終了とし、それ以外は部分行上げ開始とする。部分行上げ開始の場合においては、PLU は、PLD が現れるまで有効とする。下線が PLU に先行して指定されている場合は、PLU は下線に何の影響も与えない。
部分行下げ (PLD)	図形文字の部分行下げ開始又は部分行上げ終了を指定する書式制御文字とする。部分行上げが有効な状態では部分行上げ終了とし、それ以外は部分行下げ開始とする。部分行下げ開始の場合においては、PLD は、PLU が現れるまで有効とする。下線が PLD に先行して指定されている場合は、PLD は下線に何の影響も与えない。
拡張 (ESC)	符号拡張のための特殊制御文字とする。
制御機能拡張 (CSI)	制御機能の拡張のための特殊制御文字とする。
空文字 (NUL)	媒体の空きを埋める特殊制御文字とする。
文字置換 (SUB)	文字置換用の特殊制御文字とする。 符号の異常を検出したとき、その符号を SUB で置き換える。SUB の存在位置で装置に任せられた特定の文字を印字又は表示し、異常の存在とその位置を操作者に知らせる。

表 11 8 単位の場合の制御文字の符号化表現

記号	パラメタ値	符号化表現										
DT	—	01/12										
BS	—	00/8										
CHT	1	09/11	03/1	04/9								
	2	09/11	03/2	04/9								
	...	...										
	n	09/11	n	04/9								
LF	—	00/10										
FF	—	00/12										
CR	—	00/13										
SP	—	02/0										
HTSA	n1 ; n2 ; ...	09/11	n1	03/11	n2	03/11.....02/0					04/14	
PFS	0	09/11	03/0	02/0	04/10							
	10	09/11	03/1	03/0	02/0	04/10						
	11	09/11	03/1	03/1	02/0	04/10						
	12	09/11	03/1	03/2	02/0	04/10						
	13	09/11	03/1	03/3	02/0	04/10						
	14	09/11	03/1	03/4	02/0	04/10						
	15	09/11	03/1	03/5	02/0	04/10						
SPD	0	09/11	03/0	02/0	05/3							
	1	09/11	03/1	02/0	05/3							
SVS	0	09/11	03/0	02/0	04/12							
	1	09/11	03/1	02/0	04/12							
	2	09/11	03/2	02/0	04/12							
	3	09/11	03/3	02/0	04/12							
SHS	0	09/11	03/0	02/0	04/11							
	3	09/11	03/3	02/0	04/11							
GSM	100 ; 100	09/11	03/1	03/0	03/0	03/11	03/1	03/0	03/0	02/0	04/2	
	100 ; 50	09/11	03/1	03/0	03/0	03/11	03/5	03/0	02/0	04/2		
	100 ; 200	09/11	03/1	03/0	03/0	03/11	03/2	03/0	03/0	02/0	04/2	
SGR	0	09/11	03/0	06/13								
	4	09/11	03/4	06/13								
JFY	0	09/11	03/0	02/0	04/6							
	6	09/11	03/6	02/0	04/6							
	7	09/11	03/7	02/0	04/6							
BUS	n	09/11	n	02/0	04/15							
PLD	—	08/11										
PLU	—	08/12										
ESC	—	01/11										
CSI	—	09/11										
NUL	—	00/0										
SUB	—	01/10										

表 12 7 単位の場合の制御文字の符号化表現

記号	パラメタ値	符号化表現
DT	—	1/12
BS	—	0/8
CHT	1	1/11 5/11 3/1 4/9
	2	1/11 5/11 3/2 4/9
	...	...
	n	1/11 5/11 n 4/9
LF	—	0/10
FF	—	0/12
CR	—	0/13
SP	—	2/0
HTSA	n1 ; n2 ; ...	1/11 5/11 n1 3/11 n2 3/112/0 4/14
PFS	0	1/11 5/11 3/0 2/0 4/10
	10	1/11 5/11 3/1 3/0 2/0 4/10
	11	1/11 5/11 3/1 3/1 2/0 4/10
	12	1/11 5/11 3/1 3/2 2/0 4/10
	13	1/11 5/11 3/1 3/3 2/0 4/10
	14	1/11 5/11 3/1 3/4 2/0 4/10
	15	1/11 5/11 3/1 3/5 2/0 4/10
SPD	0	1/11 5/11 3/0 2/0 5/3
	1	1/11 5/11 3/1 2/0 5/3
SVS	0	1/11 5/11 3/0 2/0 4/12
	1	1/11 5/11 3/1 2/0 4/12
	2	1/11 5/11 3/2 2/0 4/12
	3	1/11 5/11 3/3 2/0 4/12
SHS	0	1/11 5/11 3/0 2/0 4/11
	3	1/11 5/11 3/3 2/0 4/11
GSM	100 ; 100	1/11 5/11 3/1 3/0 3/0 3/11 3/1 3/0 3/0 2/0 4/2
	100 ; 50	1/11 5/11 3/1 3/0 3/0 3/11 3/5 3/0 2/0 4/2
	100 ; 200	1/11 5/11 3/1 3/0 3/0 3/11 3/2 3/0 3/0 2/0 4/2
SGR	0	1/11 5/11 3/0 6/13
	4	1/11 5/11 3/4 6/13
JFY	0	1/11 5/11 3/0 2/0 4/6
	6	1/11 5/11 3/6 2/0 4/6
	7	1/11 5/11 3/7 2/0 4/6
BUS	n	1/11 5/11 n 2/0 4/15
PLD	—	1/11 4/11
PLU	—	1/11 4/12
ESC	—	1/11
CSI	—	1/11 5/11
NUL	—	0/0
SUB	—	1/10

6.4 文字符号の基本状態 制御文字の基本状態は、表 13 による。

表 13 基本状態

機能	状態
動作位置	第 1 行の行始端
ページ書式	文書書式情報の値
縦書き・横書き	文書書式情報の値
文字ピッチ	文書書式情報の値
行ピッチ	文書書式情報の値
タブ	すべて解除
文字変形	変形なし（全角）
そろえ	そろえの終了
部分行上げ，行下げ	終了
グラフィック修飾	グラフィック修飾の終了

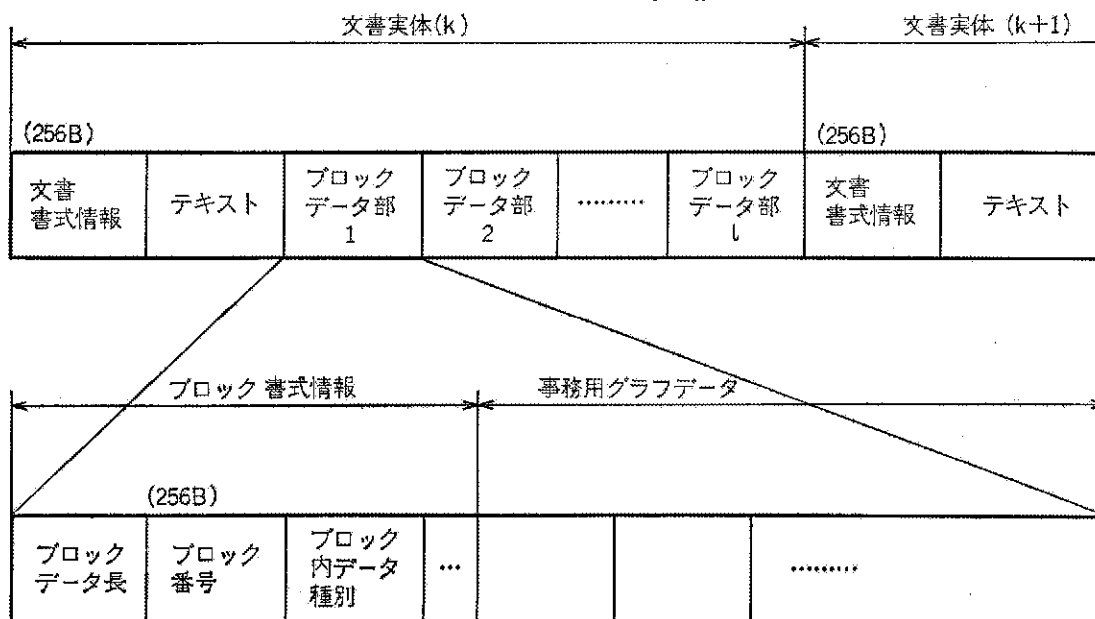
7. ブロックデータ部 文書中のブロックは、テキスト中の書式制御文字 BUS の文字位置を基準点として指定される領域とし、グラフ領域を含む（附属書図 4.1 参照）。

ブロックデータ部は、文書中のブロック内に表示する情報の集まりを指す。BUS とブロックデータ部とはブロック番号により対応づける。

なお、同一の情報内容をもつブロックデータ部を複数箇所を使う場合には、同一ブロック番号を対応づける。

7.1 ブロックデータ部の構成 ブロックデータ部はブロック書式情報とその直後に続く事務用グラフデータとからなる。ブロックデータ部の構成を図 3 に示す。

図 3 ブロックデータ部の構成



() は、バイト数を示す。

7.2 ブロック書式情報 ブロック書式情報は 256 バイトとし、その内容は表 14 による。詳細は、(1)～(8) による。

表 14 ブロック書式情報

レコード内の位置	名前	長さ(バイト)	内容
1～4	ブロックデータ長	4	数字
5～8	ブロック番号	4	数字
9	ブロック内データ種別	1	数字 “0” 又は “1”
10	ブロック寸法単位	1	数字 “0”
11～16	行方向ブロック寸法	6	数字
17～22	字方向ブロック寸法	6	数字
23	境界表示種別	1	数字 “0” 又は “1”
24～256	将来の標準化のために確保	233	間隔

備考 内容を表示する文字の符号は、JIS X 0201 による。

- (1) **ブロックデータ長** (レコード内の位置 1～4) ブロックデータ部の長さの合計を 256 バイト単位の整数倍として表し、数字 4 けたで指定する。
- (2) **ブロック番号** (レコード内の位置 5～8) テキスト中で指定されたブロック指定 “BUS” とブロックデータ部との対応をとるための番号で、4 けたの数字で指定する。ブロック番号は、一つのブロックデータ部に付与し、同一の文書中では重複しないように設定する。
- (3) **ブロック内データ種別** (レコード内の位置 9) ブロック内データ種別を指定する欄とし、次の数字で指定する。

数字 “0” : 空白ブロック (事務用グラフなし)

数字 “1” : 事務用グラフ
- (4) **ブロック寸法単位** (レコード内の位置 10) ブロック寸法単位を指定する欄とし、次の数字で指定する。

数字 “0” : BUS の文字位置における行ピッチ、文字ピッチとする。
- (5) **行方向ブロック寸法** (レコード内の位置 11～16) ブロックの行方向の寸法をブロック寸法単位で定義された単位で指定する欄とし、6 けたの数字で指定する。
- (6) **字方向ブロック寸法** (レコード内の位置 17～22) ブロックの字方向の寸法をブロック寸法単位で定義された単位で指定する欄とし、6 けたの数字で指定する。
- (7) **境界表示種別** (レコード内の位置 23) ブロックの枠の境界線の表示種別を指定する欄とし、次の数字で指定する。

数字 “0” : 境界線の表示なし

数字 “1” : 境界線の表示あり
- (8) **将来の標準化のために確保する領域** (レコード内の位置 24～256) 将来の標準化のために確保する欄とし、間隔で埋める。

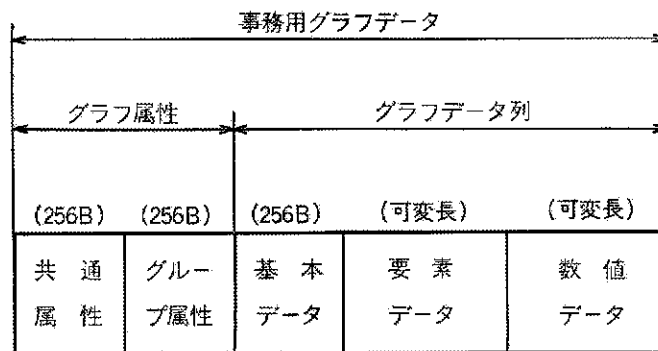
7.3 事務用グラフデータ 事務用グラフデータは、事務用グラフの形式を定義するグラフ属性とグラフデータ列からなり、その大きさは 256 バイトの整数倍とする。

グラフ属性は、事務用グラフデータの先頭に位置し、256 バイトの全グラフに共通な共通属性、256 バイトのグループで共通なグループ属性の順序で構成する。

グラフデータ列は、グラフ属性に引き続くレコードから始まり、基本データ、要素データ、数値データの順序で構成し、大きさはグラフ種別、要素数、項目数により定まる。

事務用グラフデータの構成は、図 4 による。

図 4 事務用グラフデータの構成



備考 () は、バイト数を示す。

7.3.1 グラフ属性 グラフ属性はグラフの形式を定義するもので、すべてのグラフに共通な共通属性と、グラフの種類によって決まるグループ属性からなる（附属書図 4.2 参照）。

グループ属性は、折れ線グラフ、棒グラフ及び積上げ棒グラフが属するグループ I 属性か、帯グラフ、円グラフが属するグループ II 属性に分類される。

(1) **共通属性** 共通属性は、グラフの種別、表題、ブロック内に定義されるグラフ領域の指定を示す。

その内容は、表 15 による。詳細は、(1.1～1.12)による。

(1.1) **グラフ属性データ長**（レコード内の位置 1） グラフ属性のデータの長さを指定する欄とし、256 バイト単位の 1 けたの数字で指定する。

(1.2) **グラフグループ種別**（レコード内の位置 2） グラフグループの種別を指定する欄とし、次の 1 けたの数字で指定する。

数字“0”：グループ I とする。このグループには、折れ線グラフ、棒グラフ、積上げ棒グラフが属する。

数字“1”：グループ II とする。このグループには、帯グラフ、円グラフが属する。

(1.3) **グラフ個別種別**（レコード内の位置 3） グループ内のグラフ種別を指定する欄とし、次の 1 けたの数字で指定する。

数字“0”：グループ I の場合は折れ線グラフ、グループ II の場合は帯グラフとする。

数字“1”：グループ I の場合は棒グラフ、グループ II の場合は円グラフとする。

数字“2”：グループ I の場合は積上げ棒グラフとする。

(1.4) **グラフ変形種別**（レコード内の位置 4） グラフ変形方法を指定する欄とし、次の 1 けたの数字で指定する。

数字“0”：標準とし、変形を行わない。

(1.5) **第 1 表題文字列**（レコード内の位置 5～36） グラフの第 1 表題を示す欄とし、16 けたの図形文字で指定する。第 1 表題を表示していない場合は、16 けたの漢字間隔を格納する。第 1 表題は、グラフ全体が何を示しているかを示すのに使用する。

(1.6) **第 2 表題文字列**（レコード内の位置 37～68） グラフの第 2 表題を示す欄とし、16 けたの図形文字で指定する。第 2 表題を表示しない場合は、16 けたの漢字間隔を格納する。第 2 表題は第 1 表題の補足説明などに使用する。

- (1.7) **グラフ領域指定単位** (レコード内の位置 69) グラフ領域の開始位置及びグラフ領域寸法を指定する数字の単位を指定する欄とし、次の1けたの数字で指定する。

数字“0” : BUSの文字位置における行ピッチ, 文字ピッチとする。

- (1.8) **グラフ領域開始位置(行方向)** (レコード内の位置 70~75) ブロックの基準点からグラフ領域開始位置までの行方向の寸法を, グラフ領域指定単位で定義された単位で指定する欄とし、6けたの数字で指定する。

- (1.9) **グラフ領域開始位置(字方向)** (レコード内の位置 76~81) ブロックの基準点からグラフ領域開始位置までの字方向の寸法を, グラフ領域指定単位で定義された単位で指定する欄とし、6けたの数字で指定する。

- (1.10) **グラフ領域寸法(行方向)** (レコード内の位置 82~87) グラフ領域の行方向の寸法を, グラフ領域指定単位で定義された単位で指定する欄とし、6けたの数字で指定する。

- (1.11) **グラフ領域寸法(字方向)** (レコード内の位置 88~93) グラフ領域の字方向の寸法を, グラフ領域指定単位で定義された単位で指定する欄とし、6けたの数字で指定する。

- (1.12) **将来の標準化のために確保する領域** (レコード内の位置 94~256) 将来の標準化のために確保する欄とし、間隔で埋める。

- (2) **グループ属性(グループI属性)** グループI属性は, グラフ種別が折れ線グラフ, 棒グラフ, 積上げ棒グラフの間で共通な基準軸, 実データ軸を表現するための属性を示す。

その内容は, 表16による。詳細は, (2.1~2.9)による。

実データの最大値, 最小値, 基線値及び目盛間隔を指定する数値データの表現形式は, 附属書5による。

- (2.1) **基準軸名文字列** (レコード内の位置 1~24) グラフの基準軸名を示す欄とし、12けたの図形文字で指定する。基準軸名を表示しない場合は、12けたの漢字間隔を格納する。基準軸名は、基準軸が何を示すかを説明するのに使用する。

- (2.2) **基準軸単位名文字列** (レコード内の位置 25~32) 基準軸の単位を示す欄とし、4けたの図形文字で指定する。基準軸の単位名を表示しない場合は、4けたの漢字間隔を格納する。

- (2.3) **実データ軸最大値** (レコード内の位置 33~48) 実データ軸の最大値を指定する16けたの欄とし、間隔, 符号, 小数点記号又は数字で指定する。ただし、グラフデータ列の数値データの値は、これを超えないものとする。

- (2.4) **実データ軸最小値** (レコード内の位置 49~64) 実データ軸の最小値を指定する16けたの欄とし、間隔, 符号, 小数点記号又は数字で指定する。ただし、グラフデータ列の数値データの値は、これを超えないものとする。

- (2.5) **実データ軸基線値** (レコード内の位置 65~80) 実データ軸の基線値を指定する16けたの欄とし、間隔, 符号, 小数点記号又は数字で指定する。

- (2.6) **実データ軸目盛間隔** (レコード内の位置 81~96) 実データ軸の目盛間隔を指定する16けたの欄とし、間隔, 符号, 小数点記号又は数字で指定する。

- (2.7) **実データ軸名文字列** (レコード内の位置 97~120) グラフの実データ軸名を示す欄とし、12けたの図形文字で指定する。実データ軸名を表示しない場合は、12けたの漢字間隔を格納する。実データ軸名は、実データ軸が何を示すかを説明するのに使用する。

- (2.8) **実データ軸単位名文字列** (レコード内の位置 121~128) 実データ軸の単位を示す欄とし、4けたの図形文字で指定する。実データ軸の単位名を表示しない場合は、4けたの漢字間隔を格納する。

- (2.9) **将来の標準化のために確保する領域**（レコード内の位置 129～256） 将来の標準化のために確保する欄とし、間隔で埋める。
- (3) **グループ属性（グループⅡ属性）** グループⅡ属性は、グラフ種別が帯グラフ、円グラフの間で共通な属性を示す。
その内容は、表 17 による。詳細は、(3.1)～(3.2)による。
- (3.1) **単位名文字列**（レコード内の位置 1～8） 実データの単位を示す欄とし、4 けたの図形文字で指定する。
- (3.2) **将来の標準化のために確保する領域**（レコード内の位置 9～256） 将来の標準化のために確保する欄とし、間隔で埋める。

表 15 共通属性

レコード内の位置	名前	長さ(バイト)	内容
1	グラフ属性データ長	1	数字
2	グラフグループ種別	1	数字
3	グラフ個別種別	1	数字
4	グラフ変形種別	1	数字
5～36	第 1 表題文字列	32	図形文字 (JIS X 0208)
37～68	第 2 表題文字列	32	図形文字 (JIS X 0208)
69	グラフ領域指定単位	1	数字
70～75	グラフ領域開始位置(行方向)	6	数字
76～81	グラフ領域開始位置(字方向)	6	数字
82～87	グラフ領域寸法(行方向)	6	数字
88～93	グラフ領域寸法(字方向)	6	数字
94～256	(将来の標準化のために確保)	163	間隔

備考 内容表現する文字の符号は、JIS X 0208 と断らない限り、JIS X 0201 による。

表 16 グループ I 属性

レコード内の位置	名前	長さ(バイト)	内容
1～24	基準軸名文字列	24	図形文字 (JIS X 0208)
25～32	基準軸単位名文字列	8	図形文字 (JIS X 0208)
33～48	実データ軸最大値	16	間隔, 符号, 小 数点記号又は 数字
49～64	実データ軸最小値	16	間隔, 符号, 小 数点記号又は 数字
65～80	実データ軸基線値	16	間隔, 符号, 小 数点記号又は 数字
81～96	実データ軸目盛間隔	16	間隔, 符号, 小 数点記号又は 数字
97～120	実データ軸名文字列	24	図形文字 (JIS X 0208)
121～128	実データ軸単位名文字列	8	図形文字 (JIS X 0208)
129～256	(将来の標準化のために確保)	128	間隔

備考 内容を表現する文字の符号は, JIS X 0208 と断らない限り, JIS X 0201 による。

表 17 グループ II 属性

レコード内の位置	名前	長さ(バイト)	内容
1～8	単位名文字列	8	図形文字 (JIS X 0208)
9～256	(将来の標準化のために確保)	248	間隔

備考 内容を表現する文字の符号は, JIS X 0208 と断らない限り, JIS X 0201 による。

7.3.2 グラフデータ列 グラフデータ列は, 基本データ, 要素データ及び数値データからなり, それぞれ表 18, 19 に示す。詳細は, (1)～(3)による。

(1) **基本データ** 基本データは, グラフデータ列名, 要素数及び項目数からなる。

(1.1) **グラフデータ列名** (グラフデータ列内の位置 1～32) グラフデータ列を識別する欄とし, 16 けたの図形文字で指定する。この文字列は, 表示されない。

(1.2) **要素数** (グラフデータ列内の位置 33～34) グラフデータ列の要素数を指定する欄とし, 2 けたの数字で指定する。

(1.3) **項目数** (グラフデータ列内の位置 35～36) グラフデータ列の項目数を指定する欄とし, 2 けたの数字で指定する。円グラフの場合は, 数字“01”を格納する。

(1.4) **将来の標準化のために確保する領域** (グラフデータ列内の位置 37～256) 将来の標準化のために確保する欄とし, 間隔で埋める。

(2) **要素データ** 要素データは, 要素名, 要素パターン, 項目名及び項目パターンからなる。ただし, グラフグループ I では要素パターンがなく, グラフグループ II では項目パターンがない。

(2.1) **第 1 要素名～第 n 要素名** (グラフデータ列内の位置: 基本データに引き続く位置) 要素名を指定する欄とし, 8 けたの図形文字で指定する。要素名は, グラフ中にグラフ化されたデータ数値との

対応が明らかになるような形で表示される。要素名の表示方法は、装置の機能に任される。

- (2.2) **第 1 要素パターン～第 n 要素パターン**（グラフデータ列内の位置：要素名に引き続く位置） 数値データをグラフ化するとき、区別のため、点の種類、線の種類、又は領域のハッチングの種類などを指定する欄とし、2 けたの数字で指定する。この属性は、グループ I のグラフでは存在しない。

要素パターンの表示の方法は、装置の機能に任される。

数字“00”：タイプ 0

数字“01”：タイプ 1

数字“02”：タイプ 2

数字“03”：タイプ 3

数字“04”：タイプ 4

数字“05”：タイプ 5

数字“06”：タイプ 6

数字“07”：タイプ 7

数字“08”：タイプ 8

数字“09”：タイプ 9

数字“10”：タイプ 10

数字“11”：タイプ 11

数字“12”：タイプ 12

数字“13”：タイプ 13

数字“14”：タイプ 14

数字“15”：タイプ 15

- (2.3) **第 1 項目名～第 m 項目名**（グラフデータ列内の位置：要素名に引き続く位置又は要素パターンに引き続く位置） 項目名を指定する欄とし、8 けたの図形文字で指定する。項目名は、グラフ中にグラフ化されたデータ数値との対応が明らかになるような形で表示される。円グラフの場合には、漢字間隔を格納する。項目名の表示方法は、装置の機能に任される。

表 18 グループ I グラフデータ列

分 類	グラフデータ列内の位置	名 称	長 さ (バイト)	内 容
基本データ	1～32	グラフデータ列名	32	図形文字 (JIS X 0208)
	33～34	要素数	2	数 字
	35～36	項目数	2	数 字
	37～256	(将来の標準化のために確保)	220	間 隔
要素データ	257～272	第 1 要素名	16	図形文字 (JIS X 0208)
		⋮		
	241+16n } 256+16n	第 n 要素名	16	図形文字 (JIS X 0208)
	257+16n } 272+16n	第 1 項目名	16	図形文字 (JIS X 0208)
	⋮	⋮		
	A-15 } A	第 m 項目名	16	図形文字 (JIS X 0208)
	A+1 A+2	第 1 項目パターン	2	数字
	⋮	⋮		
	B-1 B	第 m 項目パターン	2	数字
数値データ	B+1 } B+16	第 1 要素の第 1 項目データ	16	間隔, 符号, 小数 点記号又は数字
		⋮		
	B+16m-15 } B+16m	第 1 要素の第 m 項目データ	16	間隔, 符号, 小数 点記号又は数字
		⋮		
	B+16 (n-1) m+1 } B+16 (n-1) m+16	第 n 要素の第 1 項目データ	16	間隔, 符号, 小数 点記号又は数字
		⋮		
	B+16nm-15 } B+16nm	第 n 要素の第 m 項目データ	16	間隔, 符号, 小数 点記号又は数字

備考1. 内容表現する文字の符号は, JIS X 0208と断わらない限り, JIS X 0201による。

2. A は, 256+16n+16m とする。
3. B は, 256+16n+18m とする。

表 19 グループ II グラフデータ列

分 類	グラフデータ列内の位置	名 称	長 さ (バイト)	内 容
基本データ	1～32	グラフデータ列名	32	図形文字 (JIS X 0208)
	33～34	要素数	2	数字
	35～36	項目数	2	数字
	37～256	(将来の標準化のために確保)	220	間隔
要素データ	257～272	第 1 要素名	16	図形文字 (JIS X 0208)
	⋮	⋮		
	241+16n ⋮ 256+16n	第 n 要素名	16	図形文字 (JIS X 0208)
	257+16n 258+16n	第 1 要素パターン	2	数字
	⋮	⋮		
	C-1 C	第 n 要素パターン	2	数字
	C+1 ⋮ C+16	第 1 項目名	16	図形文字 (JIS X 0208)
	⋮	⋮		
	D-15 ⋮ D	第 m 項目名	16	図形文字 (JIS X 0208)
	⋮	⋮		
数値データ	D+1 ⋮ D+16	第 1 要素の第 1 項目データ	16	間隔, 符号, 小数点記号又は数字
	⋮	⋮		
	D+16m-15 ⋮ D+16m	第 1 要素の第 m 項目データ	16	間隔, 符号, 小数点記号又は数字
	⋮	⋮		
	D+16(n-1)m+1 ⋮ D+16(n-1)m+16	第 n 要素の第 1 項目データ	16	間隔, 符号, 小数点記号又は数字
	⋮	⋮		
	D+16nm-15 ⋮ D+16nm	第 n 要素の第 m 項目データ	16	間隔, 符号, 小数点記号又は数字

備考1. 内容を表現する文字の符号は、JIS X 0208と断わらない限り、JIS X 0201による。

2. C は、256+18n とする。

3. D は、256+18n+16m とする。

- (2.4) **第 1 項目パターン～第 m 項目パターン**（グラフデータ列内の位置：項目名に引き続く位置） 数値データをグラフ化するとき、区別のため、点の種類、線の種類、又は領域のハッチングの種類などを指定する欄とし、2 けたの数字で指定する。この属性は、グループ II のグラフでは存在しない。

項目パターンの表示の方法は、装置の機能に任される。

数字“00” : タイプ 0
数字“01” : タイプ 1
数字“02” : タイプ 2
数字“03” : タイプ 3
数字“04” : タイプ 4
数字“05” : タイプ 5
数字“06” : タイプ 6
数字“07” : タイプ 7
数字“08” : タイプ 8
数字“09” : タイプ 9
数字“10” : タイプ 10
数字“11” : タイプ 11
数字“12” : タイプ 12
数字“13” : タイプ 13
数字“14” : タイプ 14
数字“15” : タイプ 15

(3) 数値データ

- (3.1) **数値データ**（グラフデータ列内の位置：要素データに引き続く位置） グラフ化するデータを指定する 16 けたの欄とし、間隔、符号、小数点記号又は数字で指定する。

なお、この欄のデータの表現形式は、**附属書 5** による。

数値データの個数は、（要素数×項目数）個とする。

数値データが 1 レコードの切れ目で終了しない場合は、1 レコードの切れ目に達するまで間隔を埋める。ただし 1 文書の最終ブロックデータ部の数値データの場合は制御文字 DT を付加した後 1 レコードの切れ目に達するまで間隔を埋める。

7.3.3 事務用グラフと事務用グラフデータ 事務用グラフとして、折れ線グラフ、棒グラフ、積上げ棒グラフ、帯グラフ及び円グラフの 5 種類のグラフを規定する。グループ I グラフの実データ軸の方向は、横書き文書では行方向に平行に、縦書き文書では字方向に平行にとる。帯グラフの帯の方向は、横書き文書では字方向に平行に、縦書き文書では行方向に平行にとる。事務用グラフデータの構成は、各々のグラフにより異なるため、ここで個々の事務用グラフと事務用グラフデータの関係を示す。詳細は、(1)～(5)による。

事務用グラフデータのグラフ別の構成及び要素数、項目数については、それぞれ**表 20** 及び**表 21** による。

- (1) **折れ線グラフ** 折れ線グラフの事務用グラフデータは、グラフ属性の共通属性、グループ I 属性、グラフデータ列の基本データ、要素名、項目名、項目パターン及び数値データの順に連続して配置する。

折れ線グラフの基準軸と実データ軸は、グラフ領域の対応する辺と一致させる。

要素は、グラフデータ列の並びの順に基準軸にとり、対応する要素名を付ける。

数値データは、基準軸の対応する要素から実データ軸の方向にとった点のデータとし、同じ項目の

点は、要素の順に線で結び折れ線とする。また、このときの折れ線には、対応する項目パターンを付与する（附属書図 4.3 参照）。

- (2) **棒グラフ** 棒グラフの事務用グラフデータは、グラフ属性の共通属性、グループ I 属性、グラフデータ列の基本データ、要素名、項目名、項目パターン及び数値データの順に連続して配置する。

棒グラフの基準軸と実データ軸は、グラフ領域の対応する辺と一致させる。

要素は、グラフデータ列の並びの順に基準軸にとり、対応する要素名を付ける。

数値データは、基準軸の対応する要素から実データ軸の方向に、数値を長さで表した棒として表す。

また、一つの要素には、項目数だけの棒をグラフデータ列の項目の並び順に隣接させて、基準軸上にとる。このとき、同じ項目の棒には同じパターンを付与する（附属書図 4.4 参照）。

- (3) **積上げ棒グラフ** 積上げ棒グラフの事務用グラフデータは、グラフ属性の共通属性、グループ I 属性、グラフデータ列の基本データ、要素名、項目名、項目パターン及び数値データの順に連続して配置する。

積上げ棒グラフの基準軸と実データ軸は、グラフ領域の対応する辺と一致させる。

要素は、グラフデータ列の並びの順に基準軸にとり、対応する要素名を付ける。

数値データは、基準軸の対応する要素から実データ軸の方向に、数値を長さで表した棒として表す。

また、一つの要素には、項目数だけの棒をグラフデータ列の項目の並び順に積み上げて、基準軸上にとる。このとき、同じ項目の棒には同じパターンを付与する（附属書図 4.5 参照）。

- (4) **帯グラフ** 帯グラフの事務用グラフデータは、グラフ属性の共通属性、グループ II 属性、グラフデータ列の基本データ、要素名、要素パターン、項目名及び数値データの順に連続して配置する。

帯の長さは、グラフ領域いっぱいにとり、対応する項目名を付ける。

数値データは、帯グラフの要素の大きさを示す数値とする。同じ要素には、同じパターンを付与する（附属書図 4.6 参照）。

- (5) **円グラフ** 円グラフの事務用グラフデータは、グラフ属性の共通属性、グループ II 属性、グラフデータ列の基本データ、要素名、要素パターン及び数値データの順に連続して配置する。

全体を示す円は、グラフ領域に内接する最大の円とする。

数値データは、円グラフの要素の大きさを示す数値とする。要素には、各々指定されたパターンを付与する（附属書図 4.7 参照）。

表 20 グラフ別の事務用グラフデータの構成

グラフ種別	事務用グラフデータ							
	グラフ属性		グラフデータ列					
	共通属性	グループ属性	基本データ	要素データ				数値データ
				要素名	要素パターン	項目名	項目パターン	
折れ線グラフ	○	I	○	○	×	○	○	○
棒グラフ	○		○	○	×	○	○	○
積上げ棒グラフ	○		○	○	×	○	○	○
帯グラフ	○	II	○	○	○	○	×	○
円グラフ	○		○	○	○	○	×	○

備考 ○印は該当するデータを格納する領域が存在することを示し、×印はその領域の存在しないことを示す。

表 21 グラフ別の要素数と項目数

グラフ種別	要素数	項目数
折れ線グラフ	1本のグラフ線上の点の数	グラフ線の本数
棒グラフ	棒の集合の数	棒の集合を構成する棒の数
積上げ棒グラフ	棒の本数	1本の棒を基準軸と平行に分割したときの部分の数
帯グラフ	1本の帯を分割したときの部分の数	帯の数
円グラフ	扇形の個数	この規格では1項目だけ

附属書 1 システムラベル

システムラベルのうち、ボリューム見出しラベル (VOL1) 及びファイル見出しラベル (HDR1) の書式は、
附属書表 1.1 及び附属書表 1.2 による。

附属書表 1.1 ボリューム見出しラベルの書式

文字位置	名前	長さ (バイト)	内容
1～3	ラベル識別子	3	図形文字 “VOL”
4	ラベル番号	1	数字 “1”
5～10	ボリューム識別	6	間隔
11	ボリュームアクセス条件	1	間隔
12～37	(将来の標準化のために確保)	26	間隔
38～51	所有者識別名	14	図形文字
52～71	(将来の標準化のために確保)	20	間隔
72	記録形態	1	図形文字 “M”
73～75	(将来の標準化のために確保)	3	間隔
76	物理レコード長	1	数字 “1”
77～78	セクタ順序	2	間隔
79	(将来の標準化のために確保)	1	間隔
80	ラベル規格番号	1	数字 “3”
81～128	(将来の標準化のために確保)	48	間隔

備考 内容を表現する文字の符号は、JIS X 0210 による。

附属書表 1.2 ファイル見出しラベルの書式

文字位置	名前	長さ (バイト)	内容 ⁽¹⁾
1～3	ラベル識別子	3	文字 “HDR”
4	ラベル番号	1	数字 “1”
5	(将来の標準化のために確保)	1	間隔
6～22	ファイル識別子	17	図形文字 ⁽²⁾
23～27	ブロック長	5	数字 “00256”
28	(将来の標準化のために確保)	1	間隔
29～33	エクステンツの始まり	5	数字
34	(将来の標準化のために確保)	1	間隔
35～39	エクステンツの終わり	5	数字
40	レコード形式	1	間隔
41	バイパス表示	1	間隔又は文字 “B” ⁽³⁾
42	ファイルアクセス条件	1	間隔
43	書込み保護表示	1	間隔又は文字 “P” ⁽⁴⁾
44	情報交換水準	1	間隔
45	複数ボリューム表示	1	間隔, 文字 “C” 又は文字 “L” ⁽⁵⁾
46～47	ファイル分割番号	2	間隔又は数字 ⁽⁶⁾
48～53	作成日付け	6	間隔又は数字 ⁽⁷⁾
54～57	レコード長	4	間隔
58～62	未使用領域長	5	間隔
63	レコード属性	1	間隔

文字位置	名前	長さ (バイト)	内容 ⁽¹⁾
64	ファイル編成	1	間隔
65～66	(将来の標準化のために確保)	2	間隔
67～72	満了日付け	6	数字
73	検証／複写表示	1	間隔又は図形文字 ⁽⁶⁾
74	(将来の標準化のために確保)	1	間隔
75～79	データの終わり	5	数字
80	(将来の標準化のために確保)	1	間隔
81～128	(将来の標準化のために確保)	48	間隔

注⁽¹⁾ 内容を表現する文字の符号は、JIS X 0201による。

- (2) 情報交換の対象となるのは左端 8 文字とし、残りの文字は無視するものとする。
- (3) 当該文書ファイルは無視してはならないとき間隔、無視してもよいとき文字“B”とする。
- (4) ファイルの更新に対する保護があるか否かを指定するものとし、次に示す文字で指定する。
間 隔：保護を設けないとき。
文字“P”：保護を設けるとき。
- (5) ファイル全体がそのボリュームに記録されているか、ファイルのボリュームに続いて記録されているか、又はファイルが前のボリュームから続いてきて、このボリュームで終わっているかを指定する欄とし、次に示す文字で指定する。
間 隔：ファイル全体が、このボリュームに記録されているとき。
文字“C”：ファイルが次のボリュームに続いて記録されているとき。
文字“L”：ファイルがこのボリュームで終わるが、このボリュームから始まっていないとき。
- (6) 複数ボリュームファイルにおけるファイル分割の順序番号を指定する欄とし、連続番号を付与する場合、最初のファイル分割番号は、数字“01”とする。
この欄に指定できる文字は、次に示すものとする。
間 隔：ファイル分割に番号を付与しないとき。
数 字：数字“01”～“99”で指定。
ファイルが複数ボリュームファイルでない場合、この欄には、間隔又は数字“01”を指定する。
- (7) ファイル又はファイル分割の作成日付けを指定する欄とし、次に示す文字で指定する。
間 隔：作成日付けが無意味なとき。
第 1～2 けた：西暦年の下 2 けたを数字“00”～“99”で指定。
第 3～4 けた：月を数字“01”～“12”で指定。
第 5～6 けた：日を数字“01”～“31”で指定。
- (8) ファイル内のデータの検証処理又は他の媒体への複写処理が行われたか否かを指定する欄とし、図形文字で指定する。
間 隔：このファイルが検証処理若しくは複写処理を受けていないことを示すとき、又はこの情報が情報交換と無関係であることを示すとき指定。
その他の文字：その内容は、情報交換当事者間で合意したものとする。

附属書 2 文書書式情報の省略

文書書式情報の全部又は一部が省略されたときには、次の値とみなす。

ページ書式	: “10” (A4 サイズ短辺方向行の書式)
縦書き・横書き	: “0” (横書き)
文字ピッチ	: “03” (25.4mm 当たり 6 文字)
行ピッチ	: “01” (25.4mm 当たり 4 行)
1 行当たり文字数	: “041” (41 文字)
1 ページ当たり行数	: “039” (39 行)
行方向余白	: “03” (25.4mm 当たり 4 行の行ピッチで 3 行分)
字方向余白	: “06” (25.4mm 当たり 6 文字の文字ピッチで 6 文字分)

附属書 3 ページ書式

表 10 のページ書式選択 (PFS) の 1 行当たりの文字数は附属書表 3.1, 1 ページ当たりの行数は附属書表 3.2 による。

附属書表 3.1 1 行当たりの文字数

PFS パラメタ	SPD 縦／ 横書き	25.4mm 当たりの文字数	
		10	6
A4 北米寸法に共通な短辺方向行の書式 (00)	横書き	72	—
	縦書き	—	—
A4 寸法短辺方向行の書式 (10)	横書き	—	41
	縦書き	—	41
A4 寸法長辺方向行の書式 (11)	横書き	—	62
	縦書き	—	62
B5 寸法短辺方向行の書式 (12)	横書き	—	34
	縦書き	—	34
B5 寸法長辺方向行の書式 (13)	横書き	—	52
	縦書き	—	52
B4 寸法短辺方向行の書式 (14)	横書き	—	52
	縦書き	—	52
B4 寸法長辺方向行の書式 (15)	横書き	—	75
	縦書き	—	75

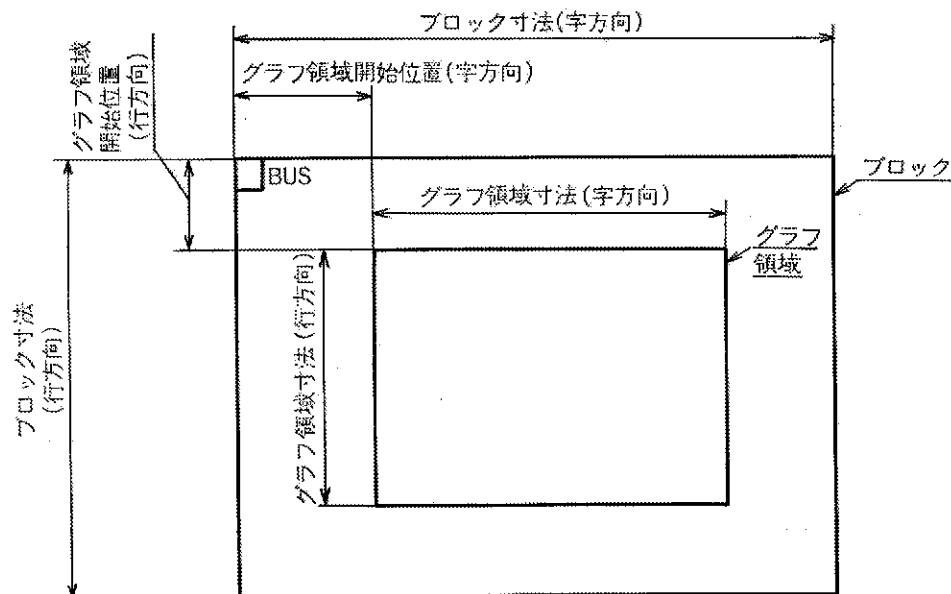
附属書表 3.2 1 ページ当たりの行数

PFS パラメタ	SPD 縦／ 横書き	25.4mm 当たりの文字数		
		6	4	3
A4 北米寸法に共通な短辺方向行の書式 (00)	横書き	55	36	27
	縦書き	—	—	—
A4 寸法短辺方向行の書式 (10)	横書き	59	39	29
	縦書き	59	39	29
A4 寸法長辺方向行の書式 (11)	横書き	38	25	19
	縦書き	38	25	19
B5 寸法短辺方向行の書式 (12)	横書き	49	33	24
	縦書き	49	33	24
B5 寸法長辺方向行の書式 (13)	横書き	32	21	16
	縦書き	32	21	16
B4 寸法短辺方向行の書式 (14)	横書き	75	50	37
	縦書き	75	50	37
B4 寸法長辺方向行の書式 (15)	横書き	49	33	24
	縦書き	49	33	24

附属書 4 事務用グラフ表現規則

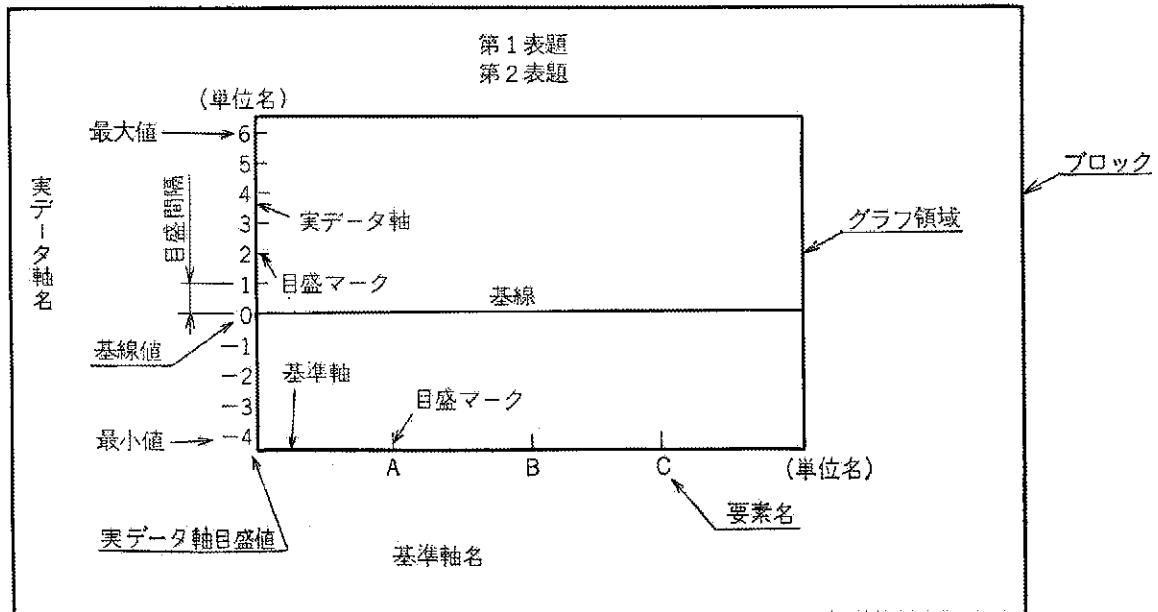
1. **ブロックとグラフ領域** 本文 7.2 ブロック書式情報で規定されるブロックと本文 7.3.1 グラフ属性で規定されるグラフ領域との関係を、附属書図 4.1 に示す。

附属書図 4.1 ブロックとグラフ領域（横書きの場合）



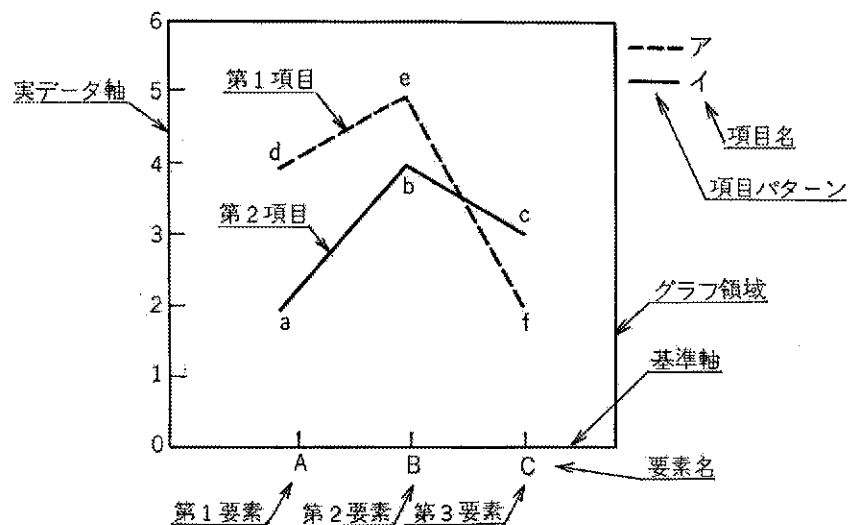
2. **グラフ属性** 本文 7.3.1 グラフ属性と各事務用グラフとの関係を、附属書図 4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.6 及び 4.7 に示す。

附属書図 4.2 グラフ属性



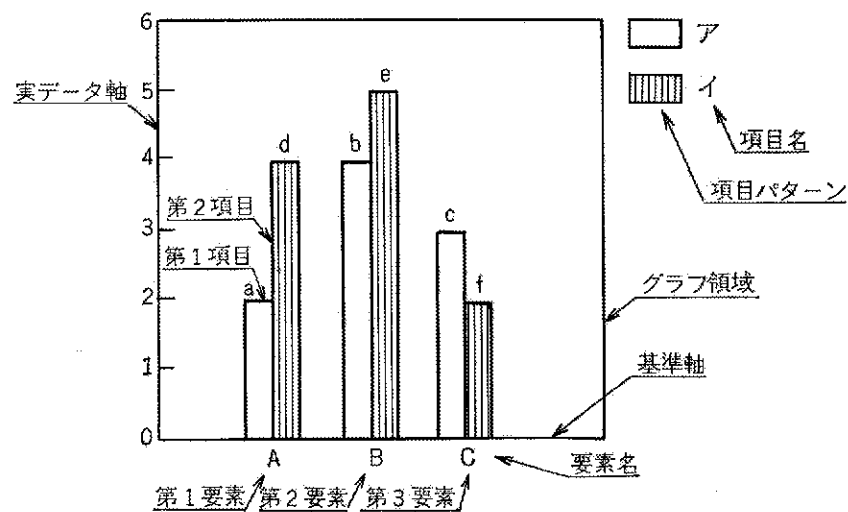
備考 第1表題, 第2表題, 基準軸名, 基準軸単位名, 実データ軸名及び実データ軸単位名の表示位置及び目盛マークの表示の有無は, 装置の機能に任される。

附属書図 4.3 折れ線グラフ



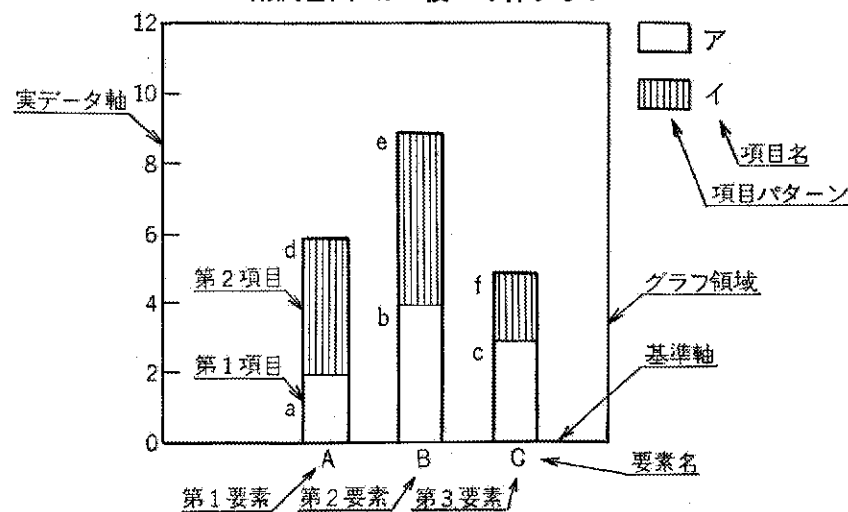
- 備考1. 数値データ (図中 a, b, ..., f) の表示の有無及び位置は, 装置の機能に任される。
2. 要素名, 項目名, 項目パターン及び実データ軸目盛値の表現形式及び表示位置は装置の機能に任される。
 3. 目盛マークの表示の有無は, 装置の機能に任される。

附属書図 4.4 棒グラフ



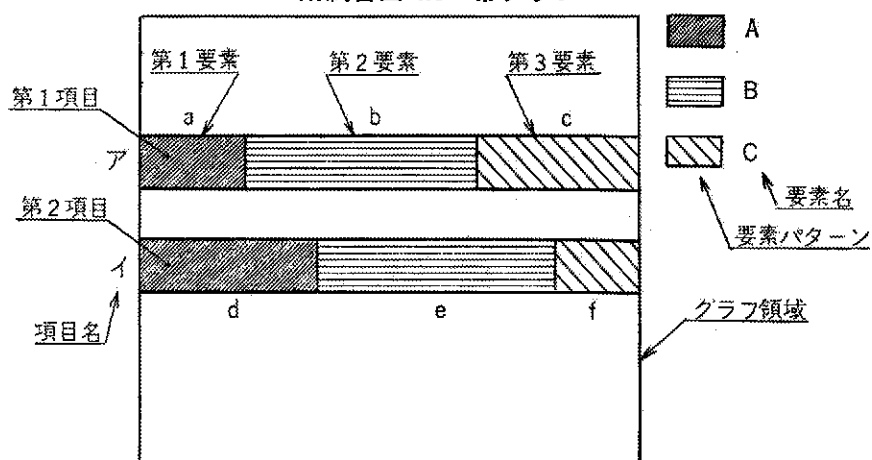
- 備考1. 数値データ（図中 a, b, …, f）の表示の有無及び位置は，装置の機能に任される。
2. 要素名，項目名，項目パターン及び実データ軸目盛値の表現形式及び表示位置は，装置の機能に任される。
3. 目盛マークの表示の有無は，装置の機能に任される。

附属書図 4.5 積上げ棒グラフ



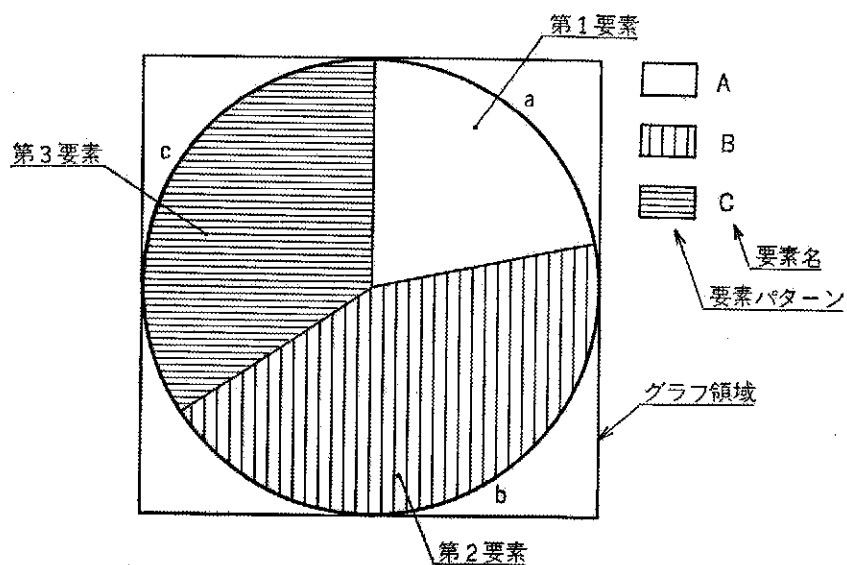
- 備考1. 数値データ（図中 a, b, …, f）の表示の有無及び位置は，装置の機能に任される。
2. 要素名，項目名，項目パターン及び実データ軸目盛値の表現形式及び表示位置は装置の機能に任される。
3. 目盛マーク及び項目パターンの境界線の表示の有無は，装置の機能に任される。

附属書図 4.6 帯グラフ



- 備考1. 数値データ（図中 a, b, …, f）の表示の有無及び位置は，装置の機能に任される。
 2. 要素名及び要素パターン及び項目名の表現形式及び表示位置は装置の機能に任される。
 3. 要素パターンの境界線の表示の有無は，装置の機能に任される。

附属書図 4.7 円グラフ



- 備考1. 数値データ（図中 a, b, c）の表示の有無及び位置は，装置の機能に任される。
 2. 要素名及び要素パターンの表現形式及び表示位置は，装置の機能に任される。
 3. 要素パターンの境界線の表示の有無は，装置の機能に任される。

附属書 5 数値データの表現形式

数値データは、JIS X 0210-1986（情報交換用文字列による数値表現）の数値表現第 1 形式と数値表現第 2 形式とによる。

形式 1 数値表現第 1 形式（暗黙小数点表現）

形式 2 数値表現第 2 形式（明示小数点表現）

同一事務用グラフデータ内では、数値データの表現形式は、形式 1 又は形式 2 の一方だけを用いるものとする。形式 2 を用いる場合、小数点記号の位置は同一事務用グラフデータ内ではそろえるものとする。

1. 数値表現第 1 形式 数を数字列で表し、小数点記号は明示せず、その位置が固定である位取り記数法とする。

1.1 一般形式 数値表現の一般形式は、次のとおりとする。

符号なし表現 間隔* 数字 数字*

符号付き表現 間隔*（符号／間隔）数字 数字*

備考 1. *（アスタリスク）の付いた文字は、それが 0 回を含めて何回でも繰り返されてもよいことを示す。

2. 左右の小括弧でくくられた文字は、一群の構文要素であることを示す。

3. 斜線／は、幾通りかの方法の一つを選択することを示す。

1.2 表現例 数値データ欄の長さを 16 とし、間隔を△で表したときの表現例を次に示す。

附属表 5.1 数値表現第 1 形式の例

日常の記法	符号なし表現	符号付き表現
4906	000000000000004906 △△△△△△△△△△△△04906 △△△△△△△△△△△△4906	+000000000000004906 △△△△△△△△△△△△+04906 △△△△△△△△△△△△+4906 △△△△△△△△△△△△4906
+4906	000000000000004906 △△△△△△△△△△△△4906	+000000000000004906 △△△△△△△△△△△△+4906 △△△△△△△△△△△△4906
-4906	表現不能	-000000000000004906 △△△△△△△△△△△△-04906 △△△△△△△△△△△△-4906
0	000000000000000000 △△△△△△△△△△△△△△0	+000000000000000000 △△△△△△△△△△△△△△+0 △△△△△△△△△△△△△△0
2048614410240143	2048614410240143	表現不能

1.3 意味 意味は、次による。

- (1) この形式の数値データは、先行間隔列（任意）とそれに続く符号（符号付き表現の場合）及び数字列で構成しなければならない。
- (2) 欄内には、少なくとも 1 個の数字が含まれ、間隔以外の文字列の途中又は最右端に間隔が含まれていてはならない。
- (3) 間隔の個数と数字の個数の和は、符号なしの表現の場合 16、符号付きの表現で符号が存在する場合 15 とする。

- 2. 数値表現第2形式** 小数点あり表現形式は、数を文字列で表し、小数点は特定の文字で明示する位取り記数法とする。

符号なし表現	$\text{間隔}^* \text{数字} \quad \text{数字}^* \text{小数点記号} \quad \text{数字}^*$ $\text{又は間隔}^* \quad \text{数字}^* \text{小数点記号} \quad \text{数字} \quad \text{数字}^*$
符号付き表現	$\text{間隔}^* (\text{符号} / \text{間隔}) \text{数字} \quad \text{数字}^* \text{小数点記号} \quad \text{数字}^*$ $\text{又は間隔}^* (\text{符号} / \text{間隔}) \text{数字}^* \text{小数点記号} \quad \text{数字} \quad \text{数字}^*$

2. 左右の小括弧でくくられた文字は、一群の構文要素であることを示す。
3. 斜線／は、幾通りかの方法の一つを選択することを示す。
4. 小数点記号として、ピリオドを用いる。

附属表 5.2 数値表現第 2 形式の例

日常の記法	符号なし表現	符号付き表現
4906	4906.000000000000 0000000000004906. △△△△△△△△△△4906.	+4906.000000000000 △△△△△△△△△△+4906. △△△△△△△△△△4906.
4906.0	△△△△△△△△△△4906.0	△△△△△△△△△△+4906.0 △△△△△△△△△△4906.0
4906.57	0000000000004906.57 △△△△△△△△△△4906.57	△△△△△△△△△△+4906.57 △△△△△△△△△△4906.57
.78125	000000000000.78125	+0.78125000000000 △△△△△△△△△△+0.78125
-3.173205	表現不能	-3.17320500000000 -003.173205000000
57646072. 5303423	57646072.5303423	表現不能
0	00000000.00000000 △△△△△△△△△△△△△0.0	+00000.0000000000 △△△△△△△△△△△△△+0.0 △△△△△△△△△△△△△0.0 △△△△△△△△△△△△△0.

- (1) この形式の数値データは、先行間隔列（任意）とそれに続く符号（符号付き表現の場合）、小数点記号を含む数字列で構成しなければならない。
- (2) 欄内には、少なくとも 1 個の数字が含まれ、間隔以外の文字列の途中又は最右端に間隔が含まれてはならない。

- (3) 間隔の個数と数字の個数の和は、符号なしの表現の場合 15、符号付きの表現で符号が存在する場合 14 とする。
- (4) 小数点記号の左側に少なくとも 1 個以上の数字があることが望ましい。
- (5) 符号なし表現では、数値はゼロより大きいか、ゼロに等しくなければならない。
- (6) 符号付き表現では、正符号は間隔で置き換えてもよい。
- (7) 小数点記号の位置は、数値の真の小数点位置を表していなければならない。
- (8) 数値 0 の符号付き表現には、正符号又は間隔を含んでいなければならない、負符号を含んでいてはならない。

日本語文書交換用ファイル仕様調査委員会 構成表

(敬称略 順不同)

	氏名	所属
(委員長)	飯 村 二 郎	立石電機株式会社東京通信研究所
(幹事)	上 田 繁	日本電信電話株式会社複合通信研究所
	高 田 輝 男	全国銀行協会連合会
	中 川 宏	総務庁行政管理局
	中 村 納	工学院大学工学部
	渡 辺 定 久	工業技術院電子技術総合研究所
	井 上 栄	日本電気株式会社第二 OA 装置事業部
	中 井 徳 郎	沖電気工業株式会社 OA 機器システム事業部
	佐 藤 武	株式会社東芝 OA 機器事業部
	光 行 博 志	株式会社日立製作所ワードプロセッサ設計部
	岡 田 潤 之	三菱電機株式会社小形計算機開発グループ
	佐々木 澄	富士通株式会社第 6 開発部
	宮 沢 孝 記	日本電信電話株式会社複合通信研究所
	下 田 宏 一	日本ユニパック株式会社技術情報サービス部
	清 野 ひろし	株式会社国際プログラムサービス情報処理部
	江 頭 和 幸	日本アイ・ビー・エム株式会社ワークステーション開発部
	野 田 正 嗣	キャノン株式会社電子タイプライター開発部
	北 村 幸 造	シャープ株式会社 OA 機器事業部
	大 西 善 雄	松下通信工業株式会社情報システム事業部
	竹 内 時 男	株式会社写研開発本部
	木 下 博 義	日本データゼネラル株式会社開発部
	谷 堂 繁 利	横河電機株式会社測定機器事業部
	南 崎 由 任	富士ゼロックス株式会社オフィスシステム事業部
	吉 川 智 久	三洋電機株式会社技術本部中央研究所
	八 木 芳 夫	株式会社リコーシステム事業本部
オブザーバ	田 崎 完 治	株式会社東芝基本ソフトウェア第 1 部
(関係者)	伊 藤 彰 一	工業技術院標準部
(事務局)	楡 木 武 久	社団法人日本電子工業振興協会
	水 田 哲 郎	社団法人日本電子工業振興協会